

京都で培われた知と美と技を探究する学風 未来社会に貢献する新たな価値を生み出す

大学の前身は明治30年代初頭、日本の近代化を進めるため政府が設置した京都蚕業講習所と京都高等工芸学校です。1949年に2つの前身校を合併して繊維学部と工芸学部とし、新制の京都工芸繊維大学を発足させました。2004年の法人化後の

2006年には両学部を統合し、工芸学部のみを単科大学に改組しました。設立の経緯から本学は「知と美と技」を追い求める、人に優しい実学としての工芸科学を目標にしています。持

京都思考を活かし イノベーションを起こす

本学の前身は明治30年代初頭、日本の近代化を進めるため政府が設置した京都蚕業講習所と京都高等工芸学校です。1949年に2つの前身校を合併して繊維学部と工芸学部とし、新制の京都工芸繊維大学を発足させました。2004年の法人化後の2006年には両学部を統合し、工芸学部のみを単科大学に改組しました。設立の経緯から本学は「知と美と技」を追い求める、人に優しい実学としての工芸科学を目標にしています。持

続可能な社会を創造する理想的な教育・研究を実践する、これが本学のミッションです。

我々は「京都思考 (KYOTO Thinking)」と呼び、教育や研究に活かしています。京都は海外からの憧れの都市です。本学には国際交流協定の依頼がひっきりなしに舞い込み、現在約百の海外大学と協定を結んでいます。交換留学も積極的に行い、本学からは1割以上の学生が留学し、海外からも多くの学生を受け入れています。



森迫 清貴 学長

もりさこ・きよたか / 1978年京都工芸繊維大学工学修士。91年京都大学博士(工学)。2000年京都工芸繊維大学教授。12年同大学理事・副学長を経て18年より現職。専門分野は建築構造。

昨今は革新的なプログラムにも取り組んでいます。2019年には大学院に異分野融合をベースに「Design-centric Engineering Program (DCEP)」という教育プログラムを設置。さらにスタンフォード大学の産学連携教育プログラムである「ME310」と、日本で唯一連携しています。企業から支援を受け海外の大学とも連携して課題に取り組みます。2年前からは、様々な研究分野の教員が一堂に会し議論を重ねる「KYOTO AGORA」の活動を



本部や講義室のある3号館。国の登録有形文化財に指定されている

始めました。地球規模の課題を解決し持続可能な社会を実現するため、各分野の知見を集め、グループでプロジェクトに取り組んでいます。

新しいリーダー像である TECH LEADERを育成

これからのリーダーシップは、単にトップに立って人々を引っばっていくだけでは足りません。本学が目指している「TECH LEADER」はデザイン思考を備え、多様性を理解し色々な意見を拾える人材です。さらに、高い技術力を持ち自分が何をすべきかわきまえてプロジェクトを成功に導く人材の育成を目指しています。変化の激しい時代、これからの大学は新しい価値を創る必要があります。私たちと一緒に新たな価値を創造してまいります。



京都工芸繊維大学 工芸科学部

Kyoto Institute of Technology

京都工芸繊維大学は、工芸科学部に「応用生物学」「応用化学」「電子システム工学」「情報工学」「機械工学」「デザイン・建築学」の6つの課程を擁する理工系単科大学だ。「知と美と技」を探求する学風に根ざし、高度専門技術者を育成する3×3システム、三大学教養教育共同化科目など、特徴ある学びを実践している。



応用化学課程の実験の様子。先端の実験機器がそろう

約8割が大学院に進学 学びを深める3×3

本学は広範な分野を網羅する理工系大学ですが、学生を一人前の技術者に育成するには、修士課程を含む6年の教育が必要と考えています。本学では学生の約8割が大学院に進学しますが、学部と大学院の学びが不連続で、非効率的な面がありました。そこで本学では、6年一貫のシームレスな教育を目指して、「学士4年・修士2年・博士3年」の学年構造を實質的に「学士3年・修士3年・博士3年」とする3×3（スリー・バイ・スリー）システムを取り入れられています。最初の3年間で専門力の基礎を養い、4年次では卒業研究に取り組みつつ、修士の内容を先取りして学びます。これにより、長期的な視野に立った高度な専門教育を行うことが可能となります。さらに、先取り学修により生まれながらの時間を研究活動の深化や留学にあてることにより、学生の更なる成長につなげることができます。



Interview

副学長
工芸科学部長 堀内淳一

ほりうちじゅんいち／博士(工学)。
1984年北海道大学大学院修士課程修了。北見工業大学教授などを経て2015年から京都工芸繊維大学教授。23年より現職。専門分野は生物化学工学、バイオプロセス工学。

本学では、多様な人材の受け入れを目指して次の3つの入試制度を設けており、受験生は個々の特性に応じた入試を選択できます。

多様な入試制度と 高い就職率

①ダビンチ入試（総合型選抜）

①ダビンチ入試（総合型選抜）
出願書類とスクーリング（講義受講やレポート作成等）により評価。②学校推薦型選抜・学長の推薦と大学入学共通テストに

より評価。③一般選抜・大学入学共通テストと理数系科目を中心とした個別学力検査により評価。令和7年度入学生に対する入試からは、本学を第一志望とする人をより多く受け入れるため、一般選抜の後期日程を廃止し、その定員をダビンチ入試、学校推薦型選抜および一般選抜の前期日程に振り分けま

また、本学では例年、修士課程修了者のうち就職を希望する人の95%以上*が就職しています。高い就職率の理由は、企業からの高い信頼にあります。長い本学の歴史の中で卒業生が産業界において多くの実績を築いており、毎年多くの会社から求人をお願いしています。加えて、学生と教員の距離の近さを活かし、キャリア教育授業や就職担当教員の配置などの手厚い就職支援を行っています。変化の激しい時代ですが、コアとなる知識や技術をしっかりと身につけ、どんな変化にも耐えられ、社会に貢献できる学生を育てていきたいですね。



デザイン・建築学課程の授業



電子システム工学課程の授業

ものづくりの力を活かす学生たち

Hot Topics

本学はものづくりの技術を活かした課外活動が活発です。NHKが主催する学生ロボコン大会には2007年から毎年参加しており、2023年には技術の高さが評価され、特別賞を受賞しました。ロボットの構想・設計・加工・プログラミングといった全ての工程を、学生自身がマネジメントしてチーム一丸となって開発しています。

学生フォーミュラ日本大会では、学生が自ら構想・設計・製作したフォーミュラカーによって2012年、2016年、2017年に引き続き2022年に4度目の総合優勝を果たし、国内トップクラスの実績を挙げています。

本学ではこれらの課外活動を大学として積極的に支援し、ものづくりの能力に加え、学生のマネジメント力、コミュニケーション力、さらにはプレゼンテーション能力の向上につなげていきます。



総合優勝を飾った学生フォーミュラチーム



〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町 TEL.075-724-7014 <https://www.kit.ac.jp/>

*2022年度修了者実績：就職者446人／就職希望者459人